

力を合わせて芝生を張る
上野区民の皆さん



仕上げは区民の手で

上野農村公園で 芝生張り

甲賀町上野に整備中の上野農村公園で、5月26日から28日までの3日間、区民による芝生張りが行われました。
この公園は、地域住民に施設に対する愛着を持ってもらうことを期待し、農村振興総合整備補助事業により整備されたものです。
作業には延べ146人の区民が参加し、手際よく作業が進められ、約3,500㎡の広大な芝生公園が出来上がりました。
区民の手によって作り上げられた公園は、今後ランドゴルフや運動会など、区民をはじめ、周辺地域の皆さんとの交流のために利用されます。

四季の花が楽しめる遊歩道 谷川親水公園オープン

寄稿者 まちかど特派員 小谷 柳太



愛称は「花香路」に決まった谷川親水公園

水に親しむ季節となりました。信楽町長野で、平成16年から整備を進めていた谷川親水公園が5月23日オープンしました。

整備事業により両岸が石垣になり、そこに遊歩道を通し、ハナミズキ・コブシ・ツツジなど25種類を植樹、楽しい散策路になりました。旧県道と307号線の間、約30mの広い川原になっているところは、緩やかな階段を降りて水に親しめる空間となっています。四季の花が楽しめる花壇は直営の園芸クラブがボランティアでお世話をされます。

長野区自治会の石田昌一いしだ まさいち区長は「遊歩道は、交通頻繁な国道を横断しなくても、橋脚の下を川に沿ってくぐり通れるようにしてあります。信楽の住民だけでなく、市民の皆さんも、ぜひ楽しんでいただきたい。」と勤めておられます。

公募により、公園の愛称は「花香路」はなごころとされることも披露されました。



—お茶—

甲賀市のお茶は、土山、信楽・水口を中心に約584ヘクタールの栽培面積があり、面積・生産量とも県内の8割以上を占め、まさに近江茶の主産地といえます。

朝宮茶は、約二百年前に岩谷山に植えられたのが起源とされ、日本五大銘茶のひとつに数えられています。土山茶は1356年南土山の常明寺の僧が京都大徳寺から種を持ち帰り寺に植えたのが始まりとされ、水口茶は1624年ごろ茶人の大御所・小堀遠州侯が水口城代となり、綾野の北方に茶の樹を植えさせたのが始まりとされています。以後それぞれの地で先人達の労苦により今の地位を確立してきました。

山間地や丘陵地で栽培されているため、厳しい自然条件と清浄な水や大気に育まれたお茶は独特の香気と深い滋味を持ち合わせ、全国や関西の茶品評会で農林水産大臣賞を受賞するなど常に上位入賞をしており、高い評価を得ています。

今年は春先に気温が低かったため、一番茶は例年より一週間程度刈り取りが遅れ、収量もやや少なめでしたが、品質は例年と同様に良い内容のものになっています。

5月中旬には、中嶋市長も出品茶の摘み取りが行われている市内の茶園を訪問し、関係者の方から今年のできばえを聞かせていただきました。(表紙は朝宮茶の茶園)
今年も品評会に向け、手摘み24点、機械摘み12点が出品され、8月に行われる審査での好成績が期待されます。

問い合わせ 農業振興課

TEL 65-0712
FAX 63-4592